

【35 回生同窓会報告】

35 回生・卒後 50 年を小豆島に集う



去る 4 月 10 日(土)、11 日(日)の両日、小豆島(香川)にて同窓会を開催した。早いもので卒業以来 50 年の歳月が過ぎ去り、その間、昭和 43 年に京都(四条大宮)での集まりを第 1 回とし以後、滋賀、岡山、横浜、京都、奈良、高山、山口、三重、兵庫、千葉などを巡り今回で 14 回目を迎えた。山田先生には日本放射線技術学会の開催と重なり、出席かなわず大変残念でした。

当日は、18 名の参加(奥様 1 名)でしたが、姫路港より福田港入り組と、新岡山港より土庄港入り組に分かれて小豆島に到着。直ちに車にて紅葉で有名な寒霞溪で落ち合い散策後(桜はすでに散っていた)、ロープウェイにて下山し、森川氏の別荘へと向かう。小高い丘の上にあり、島で一番海景色の眺めがよい邸宅であった。野外テーブル(一枚石)にて奥様の手料理でカレイの唐揚げ、豆料理、果物他ビールなどでおもてなしをうけ、しばしの団欒で時を過ごした。夕闇のせまる頃、本日の宿である国民宿舎・小豆島へと向かう。

宴会に入る前に同級生の物故者(14 名)に黙祷を捧げ、山口氏の乾杯の音頭で開宴。今回、久しぶりに参加の山口、水鳥両氏の元気な顔を拝見し、皆も大変懐かしく、しかも嬉しく感じた次第です。17 名の出席でしたが、古希も過ぎ多くの方が何かの病いをもちながらもお会いすることができて、この上ない喜びでした。お互いにお酒は大分弱くなってきましたが、まだまだ強い御仁もおられ頼もしい限りです。飲むほどに話題は在学時代のこと、近況報告や消息、自分の体調のことなどで終始和やかで賑やかに語り合った。瀬戸内の料理にも舌鼓をうち満喫した。

宴もたけなわになった頃、森川氏の紹介で、地元の SOSS(小豆島オリーブサウンドサービス)グループによる演奏があった。演奏曲は楽器やハーモニカを混じえ「同行二人遍路旅や小豆島の詩」など数曲が披露され、しばしの間、うっとりとし聞き入った。その後の二次会は別室で深夜まで続いたようです。

翌日は、森川氏の友人のガイドで観光巡りを行った。オリーブ公園、あの有名な映画「二十四の

瞳」の岬の分教場・24の瞳館、エンジェルロード(天使の散歩道)—現代の若者の恋愛のデートコースで愛を誓い合う場所とか、有形民俗文化財指定の農村歌舞伎舞台(毎年10月上旬に上演)、里山、千枚田などを見学し、土庄港の食事処「味彩」にて昼食をとり散会した。

今回は、森川氏ご夫妻には特にご配慮をいただき、その上心暖まる歓待をうけ、心よりお礼を申し上げます。また、お世話をしていただいた那波、船田、曾我部各氏に感謝致します。

次回は、2年後に琵琶湖周辺(滋賀)で土田、曾我部両氏の幹事で開催する予定です。身体には充分気をつけて、また元気な姿でお会いしましょう。今回、出席できなかった方も次回は是非ご参加下さい。

出席者

上平熙、木村太一郎、北村恵一、厚東正之、曾我部康之、土田信明、東郷忠士、那波紀興、船田基、増田寿一、松岡勇(ご夫妻)、水鳥好和、村中和雄、森川茂雄、安威徹、安田浩二、山口惣二

(文責 K記)

以上

* 通巻 196 号 2010 年 7 月 10 日発行(H22-No.2)より